片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-01
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX 0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎
題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

目指すは緑の楽園
育て！ブナの木、桜並木
静岡の横山さんから桜届く

自然を愛する会「グリーンパーク水沢」は、楽しみながら自らの手で片貝の山を整備し、心のいこいの場を作ろうと2年前から活動している。今年も春を待ち活動を開始した。昨年植えた山欅無約200本のうち2／3以上は根付き美しい若葉を付けており、花ワサビやウワバミ草なども元気に成育、ミズバショウも少しづつ株を増やしている。

同会の活動を知った片貝出身の横山京さん（83才静岡在住）から故郷片貝を愛する一人として何か役立ちたいと吉野桜の苗木10本が贈られてきた。メンバー等は、4月の例会でさっそくこの植樹を行なった。横山さんは元気でいられる限り毎年何かの苗木を贈り続けたいと知人である佐藤益美さん（94才五之町）に語っており、佐藤さんも「私も先日桜の木を歩いて見に行って来ました。花が咲くのが楽しみです。それまで私も元気でいたいものです」とうれしげ。

5月の例会では暑い中、下草刈りや土砂で埋まった川整備などを行なった。又、木を伐採するなどして通称「ハナ山」と呼ばれる山頂までの歩道を切り開いた。

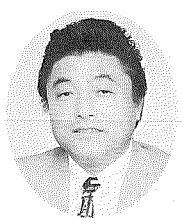
「片貝の山にもいろんな生物が棲息しているんですよ、この前は5、6人の人がサルを見たといっていました。外にカワセミやテン、リスなども見ることがある。サワガニを採ったりホタルを楽しんだり、自分達が子供の頃楽しんだことを今の子供達にも教えてあげたいですね」と会員の一人は夢をふくらませる。

同会には横山さんの外に、商工会議所からは苗木を寄附したい旨や、町内外の人達からは、自宅にミズバショウが沢山あるので株分けしてあげたいなどの申し出があり安達泰三さん（同会名誉会長）は皆さんの善意は本当にありがたく思いますと顔をほころばせていた。

ぶなの苗木と安達泰三さん

吉原、安達両市議登壇
市議会一般質問で

第三回定例市議会は十一日から二十一日まで開催され、二十日の市政に対する一般質問には、片貝議員団の中からは吉原、安達の両市議が登壇した。

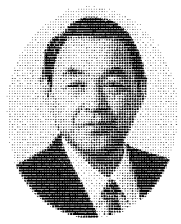


〈吉原正幸市議〉

(一)山本山は小千谷のシンボル的場所であるが、牧場の放牧は今年度限りで、以後は採草のみと聞くが、これでは市民は納得しない。最近個人的に新潟市のプロカメラマンと会ったが、彼は山本山の360°パノラマ、特に信濃川の蛇行と越後三山を望む景色は他にない。関越自動車道川口インターから至近距離にあり、ひまわり等の花畑を作ればもっともっと素晴らしい山となる、と熱っぽく語ってくれ私も感動した。この他にも山本山全体を見渡せばアイディアはいくらでもわいてくる、まさに小千谷にとっては宝の山。市長は山本山整備をどう考えているのか。

〈小出市長〉

(一)山本山から望む360°パノラマは県下に誇るもの。総合的な開発をどのように進めるべきか、助役をトップに全庁あげて取り組みを進めているところ。



〈安達稔市議〉

(一)昨年十一月に核燃料輸送経路にあたる関係市町村対象の核燃安全輸送講習会が開かれたが当市から出席したのは誰か。通過する事前情報はあるのか。

(二)公営住宅法改正によって、家賃は収入により大幅に変動するか。

(三)女性の社会参加を目指す「女性行動計画」は、県内20市中6市が既に策定し、今年もう二市が作るが、当市の計画は。

〈小出市長〉

(一)広域事務組合と市総務課交通防災係が出席した。輸送日時・経路は非公開であるので連絡はない。

(二)家賃制度の規定は平成十年四月からの適用であるので国、県と協議しながら検討してゆきたい。

(三)当市の女性行動計画の策定は、総合開発計画の推進の中で、住民や各種団体等の意識の高まりを勘案しながら検討してゆく。

主張

百条問題を正しく見据える

市議会で談合疑惑がかしましく議論されている。市議の中には「世間を騒がす云々」や「市民が真相究明を望んでいる」と頻発する人がいるが、これを額面どおりとらえることはいかがなものか。

確かに市議会では大騒ぎをしているが、一般にはさほど関心がないのが実情のようだ。勿論真相究明はしなければならないが、それはルールにのっとり、公平な態度を貫かなくてはならない。

「世間を騒がす云々」や「市民が真相究明を望んでいる」等のことをよく口にする人は、自分の責任を他に押しつけたり、自分の不公平な行為を市民の名を借りて行なうための、隠れ蓑のように見えてならないのは小欄一人であろうか。

さて、我が片貝町の4人の市議はどのような行動、立場をとっているか注目してみよう。最初はともかく、現在は不思議なことに珍しく、4人共歩調がピッタリと合っている。

即ち「世間を騒がす云々」や「市民が真相究明を望んでいる」と声高に叫んでいる市議とは、一線を画す側にいるのだ。百条委員会のやり方があまりにも独善的で、最初から談合ありきで事を進め、白紙からスタートして事実を積み重ねてひとつの結論を求めようというのではなく、自分達が進もうとする方向に都合のいいことだけのみを正しいとして取り上げる姿勢、議会ルール無視も目に余る、などのことを理由に、百条委員会の中枢に対し、批判的な姿勢をとっているのだ。

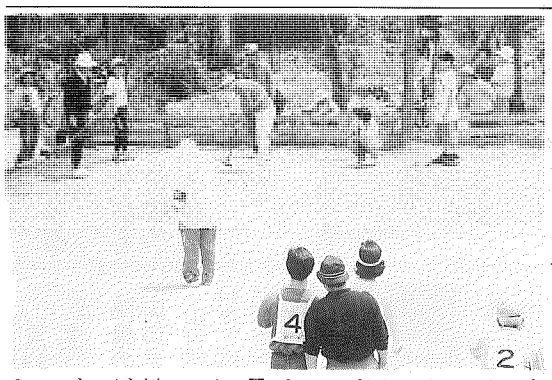
関、安達両市議は百条委員会を作る時から反対にまわった。談合疑惑のその情報源が匿名であったこと、裏に潜むドロドロしたものを感じとったためと聞いた。小林、吉原両市議も途中から軌道修正した。特に小林市議は小紙5月号で詳報したように、自らが百条委員会に所属しながら、その理不尽さを堂々と指摘し、修正動議を出し、圧倒的多数でそれが可決された。〝誤ちを正すことにはばかることなかれ〟の行動をとったその勇気は賞賛されてよいだろう。

市議は市民に選ばれた25名である。それなりの見識を持った人達である。その人達が今、17対8に分かれているという。もう少し時間をかけなければ、本当の真相は見えてこないが、付和雷同的でなければ、たいていは大勢の判断の方に分があるものだ。

小数派の8名がひとりの建設業者を談合罪で告発したが、今は成り行きを静かに見守る時である。捜査が進み色々のことが明らかになるやも知れぬ。例えばとかく噂の〝裏で暗躍のフィクサー〟のことも、それが本当かどうかあぶり出されたり、汚いドロドロとしたものまで全てが全容を表わすやも知れないのだ。

既に司直の手に委ねられたのであるから、百条委員会もそろそろいらないのではないか。違う観点から住みよい小千谷、活性化対策を探り出す方に、エネルギーを傾けてもらいたいものである。

五之町がゲートボールで世代間交流図る



去る5月26日(日)晴天の下、五之町町内会（安達和雄町内会長）の町内親睦ゲートボール大会が行なわれ、老若男女が楽しい一日を過ごした。同町内はこうした親睦に力を入れており大会も今年で10回目を数える。町内の広場には、1班～5班までの5チームに子供会、やよい会、町内役員チームが加わり計8チーム（1チームに女性2人含む）でゲームが展開された。結果は次のとおり。1位2班（浅田一也、吉原洋二、吉原元子、安達宏之、安達真由美、吉井泉、野中寿美子）2位5班、3位1班。

他に親睦としては、正月にもボーリング大会を行なっており、出場者が毎回50名以上で人気の大会となっている。なお当日は「ゴミ0」の日であったので、大会に先がけ、朝7時半から1時間町内のゴミ拾いを行ない、町内も気持ちも良くなったところでの大会となった。

又、6月22日には町内会の声かけで危険物、粗大ゴミの収集を行なった。ゴミはテレビ、冷蔵庫、自転車、マットレスなどの大型のものが多く用意した4tトラックにあっという間に山になった。町内の主婦は「家の中が整理でき本当に助かりますね」と大喜び。市の関係者も町内単位で収集してくれるのは初めてのケースですと話していた。

関市議表彰される

初日の11日本会議開会前に、市議を25年以上務めた功績により、全国議長会と北信越議長会から表彰された関広一市議（60、町裏）と舟山栄三郎市議（77、旭町）に、阿部議長から表彰状が伝達された。

関市議は昭和46年、35才の若さで市職を退職し市職労から支援を受けて初当選、以来七期連続で市議を務め、この間副議長を初め各要職を歴任、現在は議会運営委員長のポストにある。

今までの市議生活をふり返って一番の思い出は、片貝に水道を通す時に尽力したこと。片貝は各家庭が良質な井戸水を確保出来ていただけに、水道には極めて消極的だった。昭和40年代後半から将来必ず必要になると訴え続けたが、賛同者は少なく、地元議員も協力的でなく、中には猛反対するものも多かったという。それが星野市政になった当初にようやく実現した。「今になってみれば、水道がひかれていなかったら下水道整備もないわけで、自分で言うのもおこがましいが、先見の明があったと思う」とニッコリ。今回の表彰には「政治家に与えられる賞はその人個人ではなく、支持者全員に対してと思う。地域の皆さんの支援による賜」と感謝の弁。

かたかい春秋

いつの間にか夏至が過ぎたが、まだ梅雨は明けず、ジメジメとうっとおしい日が続く。今年の梅雨明けはいつ頃であろうか。大抵は今月半ば頃であろうが、梅雨明けと共に夏本番である。▼そう言えば昨年の7・11水害はすごかった。幸いにして片貝町はさほどの被害はなかったようであるが、小千谷市全体では道路陥没、上越線陥没、農林水害多発など大きな爪跡を残したことは記憶に新しい。水害は山林の開拓や棚田を初めとする田圃の休耕や宅地転用などが、真因であると言われている。▼片貝町もご多分に漏れず開発は進み木も相当伐採されているようであるが、大丈夫であろうか。グリーンパーク水沢のグループは、緑をこよなく愛するメンバーで、ユニークな活動を展開している。肩肘を貼らずに足許を見据えてコツコツと行なうという会のモットーがまた素晴らしい。彼等が目指すところのひとつ、ブナ林は豊かに水を貯えて、良質な水源を涵養する。息ながく、裾野を拡げつつ活動してゆくことを期待している。▼片貝中学校がスポーツ大会で今年も活躍が目覚ましい。頼もしい限りである。しかし、一言要望であるが、あくまでもそのスポーツを楽しみながらの大会での好成績であってほしい。やもすると結果のみを追い求めてしまい、苦しさだけが生徒に残ってしまうおそれがある。これは指導者に責任がある。父母も指導者にそれを求め過ぎてはいまいか。スポーツの楽しさがなければ、それ以後の技術の向上もないのではなかろうか。第一、中学は人生のまだ始まったばかりの地点ではないか。楽しみが味わえないなら、その後に大きく影響しよう。杞憂であればよいのだが。

エレクトーンの音色楽しむ
リサイクルかたかいが主催

リサイクルかたかいは、6月23日午後一時半から片貝公民館で、会員でエレクトーン講師の安達美登里さん（一之町演奏による「エレクトーンコンサート」を開催した。

これは日頃、リサイクル活動に協力してもらっている町民に感謝をこめ、梅雨のうっとおしさを一掃、心のリフレッシュを狙っての企画。ビーズの「ラブファントム」、NHK大河ドラマ「秀吉」のテーマ曲、「不思議の国のアリス」、美空ひばりの「川の流れのように」など十五曲を演奏、会場には子供や主婦等を中心に大勢が集まり、美しいエレクトーンの音色を楽しんだ。

バスケ、バレー　アベック優勝
片貝中、今年も頑張る
大勢が中越大会へ駒進める

6日白山運動公園陸上競技場で第43回市内陸上競技大会が開催された。絶好の大会日和に恵まれ市内各校の熱い応援合戦のもと若いエネルギーが燃焼した。片貝中の入賞は次のとおり。

［男子の部］

○100m1年＝⑤高橋祐介14秒2⑥藤塚真一14秒3⑧小野塚一泰14秒4

○200m＝⑥諸我和成27秒

○400m＝⑦茂山賢司1分3秒3

○800m＝①**山賀一豊**2分10秒3⑧大矢英明2分21秒3

○1500m（1年）＝③小比田弘樹4分58秒1⑥山賀拓真5分2秒4

1500m＝②**山賀一豊**4分28秒9

○3000m＝⑧石上祐輔10分30秒3

○4×100mリレー（1年）＝④小野塚一泰、高橋一明、藤塚真一、高橋祐介57秒2

○4×200mリレー＝③**渡辺崇、石上健太郎、松井孝行、堀井康文**1分48秒9

○三種競技B＝④**藤塚辰徳**1741点⑤南雲卓己1696点

［女子の部］

○100m（1年）＝⑦小宮梓15秒6

○100m＝⑦小林美穂14秒6⑧松下はるな14秒7

○200m＝⑤山口梓30秒5

○800m（1年）＝⑤品田麻衣子2分55秒3⑥浅田悠里2分56秒6⑦小林奈美子3分3秒5⑧丸山恵三子3分5秒4

○4×100m（1年）＝④小宮梓、神林沙知子、小林亜矢、浅田真由美1分2秒8

○4×100m＝②**山口梓、松下はるな、山口有香里、山賀千恵子**57秒1

○走幅跳＝①**山賀千恵子**4m48⑥相崎千佳3m94⑧小林美穂3m82

○砲丸投＝③**黒崎美江子**8m81④**山口梓**8m50⑧片桐早栄子7m84

（ゴシックは7月4、5の両日十日町市営陸上競技場で開催される第46回中越地区中学校陸上競技大会に出場権獲得）

また11日から13日まで市内中学校球技大会が市内のそれぞれの会場で開催され各大会のスタートを切った。

〈バスケットボール〉

一般の部・優勝

片貝55―44東小千谷

片貝44―35小千谷

（小比田隆太、山口透、茂山賢司、松井孝行、大矢英明、神林健輔、小野塚誠也、大矢貴徳、堀井康文、市川淳一、本田和也、丸山隆宏、小宮山和哉、小野塚一晃、大平真志）

1、2年の部・優勝

片貝55―44東小千谷

片貝49―31小千谷

（丸山隆宏、本田和也、小宮山和哉、小野塚一晃、大平真志、山口透、小比田弘樹、目崎慎吾、浅田和穂、高橋一明、大矢諭志、小比田準也、佐藤佑一、阿部宗弘、小林亮太）

キャプテンコメント（小比田隆太君）

実力を出せる波がありその波をなくす様努力して来たが今大会は思う様なプレイが出来た。

〈バレーボール〉優勝

片貝2（15―2、15―1）0南

片貝2（15―4、15―2）0東小千谷

片貝2（15―5、15―1）0千田

片貝2（15―2、15―1）0小千谷

（山口有香里、大矢有香、片桐早栄子、相崎千佳、山口梓、藤塚さやか、山賀千恵子、黒崎美江子、高橋麻美、芝加奈子、小林美穂、佐藤江里子）

キャプテンコメント（山賀千恵子さん）

「拾ってつなげてせめる」が片中の特長。それを生かして試合にいどんだ。上につながる第一の壁が突破出来て良かった。

〈ソフトテニス〉団体2位

片貝1（14―11、4―4、11―4）2小千谷

片貝3（44―44、12―01）0南

片貝3（44―44、12―11）0千田

個人戦＝3位黒崎友紀子・堀井絢子組

キャプテンコメント（黒崎友紀子さん）

中越大会めざし苦手な所を克服する努力をして来た。全体として調子が良かったと思う。

〈卓球〉団体戦2位

片貝1（0―2、0―2、2―0）3東小千谷

片貝3（2―0、2―0、0―0）0南

片貝3（2―1、2―1、2―1）0千田

片貝3（2―0、2―1、2―0）0小千谷

（米山三紀子、堀井美和、浅田知里、高野雅子、堀沢美雪、高橋絵美、品田香奈子、宮賀奈子、高野明美、阿部真由美）

個人戦＝3位米山三紀子以上中越大会出場

〈野球〉準優勝

片貝5―2小千谷

片貝6―0南

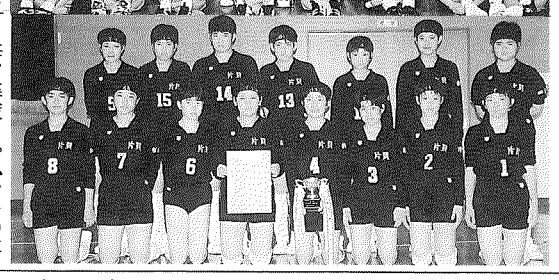
片貝3―15千田

（吉井智、原智史、原卓也、小野塚和紘、浅田智之、石上賢太郎、横山淳、野中大輔、諸我和成、安達洋文、石上隼人、小宮修、山口慎弥、吉田尚、安達巧、黒崎真由、阿部高光、山賀秀康、藤塚孝裕）

キャプテンコメント（吉井智君）

守備でミスがない様練習を重ねて来た。1、2試合とも順調であったが決勝戦で守備がみだれてしまって負けてしまったのでひじょうにくやしい。

◀バスケットボール

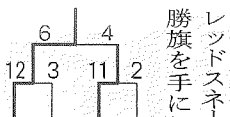


◀バレーボール

今、野球がおもしろい
町の各チーム紹介Ⅱ

只今野球シーズンたけなわで片貝野球連盟主催の大会がめじろ押しだ。5月30日には早起き野球大会が行なわれ、JA片貝町が優勝。6月6日からは連盟ナイターが始まったが、天候に恵まれず決勝戦（トナカイVSプロテイン）は、おあずけ状態。

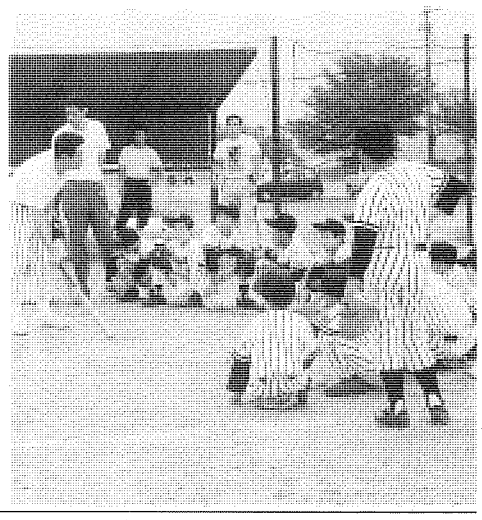
23日は節句野球大会。参加は4チームで不調続きのレッドスネークが久々の優勝旗を手にした。



同大会は昭和31年（小千谷市市政施行の年）を皮切りにスタートしたもので現存する大会で最も古い大会である。開始当時は、6月16日の節句に行なわれ多くの町民がハチマキを持ってグラウンドに集まり、野球見物で一日を楽しんだという。片中野球部は授業を休んでまで参加した古き良き時代でもあった。

片貝町体育協会史をひもといてみると、確かな歩みがそこに記されている。

昭和元年に長岡方面に通学する学生立ちにより片貝初の野球チーム通学団（KTT）が結成されて以来、青年会、町内会や企業、役所チームが主流を成し片貝の野球史を飾って来た。時代と共にこれらのチームは徐々に姿を消し変わってチーム形態は、同級生や同好会へと移行して来た。



「野球は小学生から我々50をすぎても出来る息の長いスポーツです。見ているだけでも楽しいスポーツですので是非観戦に来て下さい」と会長はPR。

近年はサッカーブームや子供達のゲーム熱で野球人口が減少。そのため野球がさらに盛んになるよう連盟では2年前から少年野球の指導にも力を入れている。小学生に声をかけた所25名（対象は4年から6年まで）の野球少年が集まり、ジャガーズを結成。第一、第三の日曜日と第二、第四の土曜日、朝9時～11時までの2時間連盟の若手有志が指導に当たっている。6月16日朝、この日も可愛いユニホーム姿がボールを追っていた。キャプテンの大矢忠幸君（6年、二之町）に野球の面白さを尋ねると「皆んなでやるのが楽しいです」と答えてくれた。

ジャガーズは試合経験こそ少ないが先月19日の小千谷学童少年野球大会では準優勝をしている。「いつでも入団可能ですので野球の好きな子は是非入って欲しい」とコーチの佐藤正美さん（屋敷）は話している。

チーム紹介

JA片貝町　片貝野球連盟の中で唯一残っている企業チームである。チームに入って初めて野球をしたという初心者から上級者までひっくるめて野球を楽しんでいるチームです。

レッドスネーク　キャンディーズから「のんべえず」「イーグルス」が分離。その後現在の名前に変更。10代から40代までの幅広い年令層の野球大好き人間が集まり和気あいあい「片貝一」を目指しています。

訂正　6月1日号会長杯野球大会トーナメント表の決勝戦ロイヤルの得点が16とあるが6点の誤り。

私達結婚しました

安達　和志さん(29)四之町
みち子さん(21)桜町出身

Q ご結婚はいつですか

A 平成8年5月18日

Q 出逢いのきっかけは

A 職場の歓送迎会で―。

Q 片貝の感想は

A 人情味あふれる町

Q お互いどんな所が好きですか

A やさしい所（夫婦共に）

Q 子供は何人位ほしいですか

A 2人

Q どんな家族作りをして行きたいですか？そのためにどんなことに力を入れていこうと思いますか

A 明るい家庭に。家族みんなが何でも話し合えるようにする。

ハローベイビー

○吉原大輔くん（一之町）

パパ隆さん、ママ純子さんの第一子長男

平成6年12月22日生

現在の体重11.5kg身長83cm

Q 名前の由来

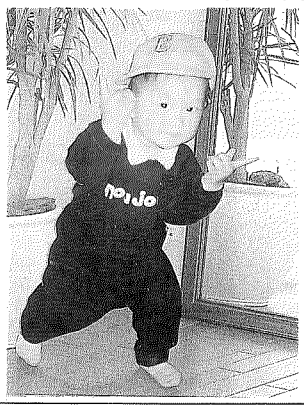
A 大きな心をもった大きな人間に育つように

Q お子さんの様子

A 元気が良く、特に今は野球に興味がある様でおもちゃのバットとボールを使って楽しそうに遊んでいます。

Q どんな子に育って欲しいですか

A 人を楽しくさせてくれる明るく元気いっぱいの子供に育って欲しいです。



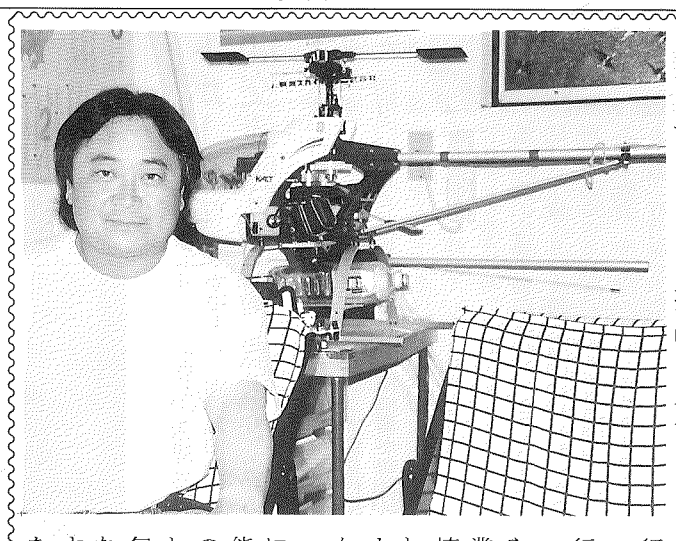
これは珍しい八重咲きどくだみ
八島の安達さん宅で

八島の安達美佐子さん宅でめずらしい八重咲きのどくだみ草がかれんな花をつけている。一般的にどくだみは薬草として知られており4片の白い花びら（注正しくは総包と呼ぶ）を付けているが安達さん宅に咲くどくだみは写真の様な八重。

安達さんは知る人ぞ知る野草大好き人間。3、4年前に小千谷の野草の会を訪れた所、美しく咲くこの八重どくだみを見つけ見入っていた所、「そんなにお気に入りでしたら分けてあげますよ」と出展者がわざわざ自宅から2、3本を株分けして持って来てくれたもの。以来毎年少しずつ増え野草の好きな人に分けるなどして喜ばれている。

（注総包＝一見花びらの様に見えるが、これは花が小さく虫に分かりにくいため花の存在を虫に知らせるための役割りをするもので、ひまわりの花びらと思われるものもその一種）

片貝ヒューマンウォッチング
鴻巣の山口さん　ラジコンヘリに魅せられて



山口早苗さん（鴻巣、44才）は農業のかたわらラジコンヘリコプターのインストラクターとして忙しい毎日を送っている。

幼い頃からパイロットに憧れていた山口さんは、20代半ば頃からラジコン飛行機に興味を持ち、機械いじりが好きだった事から組み立てから操縦まで全て独学でこなして来た。30代になると次はウルトラライト（超軽量飛行機）を購入し自ら大空へ。小粟田原などでの飛行を楽しんだ。

平成に入った頃、雑誌や農機具展示会などで産業用無人ヘリコプターの情報が目に付き、是非これに挑戦してみたくなり、またもやトライする事となる。やってみるとラジコン飛行機の単純な動きに比べ、複雑な動きが可能なヘリコプターの操縦の方がはるかに楽しいことを知った。「動かす度に毎回新しい発見があり、なかなか奥の深いものです。感覚的にはスポーツをすることと似ている様な気がしますね」とすっかりとりこになっているようだ。

平成3年には無人用ヘリコプターのインストラクターライセンスを取得し、長岡、柏崎、佐渡などの農業共済組合でオペレーターとして飛び回ったり、巻農業大学校の講師として活躍したりもしている。腕前はなかなかのもので、3年前、茨城においての全国産業用ヘリ技能大会でインストラクターの部で7位になる程の実力の持ち主である。又、最近はヤマハスカイテックヘリスクールの小千谷校を自宅にて開設、すでに何人かの指導に当たって来た。ヘリによる稲の直蒔きも5年前から試験的に行ない、話題になるなど次から次へと新しい事に挑戦し人生を楽しんでいる。

現在はラジコンヘリを使っての空撮なども趣味としてやっている。セスナなどは、最低飛行高度が決められており、かなり高い高度からの撮影となるがラジコンの場合は超低空飛行が可能なため細かい部分も撮れるので有利であるという。依頼があれば受けたいと張り切っている。

他にアマチュア無線も中学3年生の頃からやっておりこちらも養成課程講師の免許も有するキャリアを持つ。

「人生遊びを持った方が楽しいですよね、農業をやりながらのんびり暮らすつもりであったのが趣味がこうじてそちらの方が忙しくなり、一日の過ぎるのがあっという間です。おかしなものですね」と黒く日焼けした顔で楽しそうに笑っていた。